

令和五年

# 松香 Komunikado

令和五年五月度 月次祭 ごあいさつ

分苑長 山本 健

Saluton al ĉiuj

草花が勢いよく伸びる新緑の季節になりました。日中は初夏を思わせるほどの暑い陽射しが差す気候になってまいりました。ただいまは松香分苑の令和五年五月度の月次祭を、すがすがしく斎行させていただきました。ご参拝・ご奉仕くださいました皆様方、又オンライン参拝並びにお玉串をお送りくださりました方々、誠に有難うございました。

四月末から五月にかけて祭典行事が続きました。

一、四月二十八日…弥仙山岩戸開き百二十周年記念祭典が、弥仙山山頂の金峰山神社と、麓の弥仙会館の二箇所同時中継で祭典が行われました。私は、初めて弥仙山に登らせていただきました。一時間弱で登ることができ、思っていたよりは楽に、登る事ができました。

五月十四日発行

第三百二号

大本松香分苑

豊橋市南牛川二・三・二〇

電話 ファックス

〇五三二・六三・二一七三

発行責任者 山本 健

事前に近くの山に二時間かけて登っておりましたし、他にも一時間以内で二か所登っていたことと、大神様の御守護があったおかげで、楽に登らせていただいたものと、思います。

百二十年前の二度目の岩戸開きは、この地上世界の岩戸開きで、押し込められていた天の大神様を世に出していただく神事で、神界ではみろくの世の準備が整ったことになります。二十年前の百周年記念祭典の際に、教主様は、「ひとり一人が岩戸開き」と染筆され御下付頂きました。

日出磨尊師様は、生きがいの探求の第一巻、「主観を改造すべし」の末尾に、「心の岩戸開きとは、この主観の改造のことである。すべて、自然に、ものを善意に解しうるようになれば、その人の岩戸は開けたのである。光と栄えの中に、その人は在るのである。」とお示しくださっております。すべてを大神様にゆだねて、ただ我々は、「人知を尽くして天命を待つ」

とお示しくださっております。すべてを大神様にゆだねて、ただ我々は、「人知を尽くして天命を待つ」といった気持ちで、祈りつつ実践させていただくことが大切だと思います。山本文子相談役は、私が心配したりすると、「父さんは、大神さまを信じていないね、大神様にお願ひしたらあとはお任せして一切心配する必要はない」といつも言っております。最近少し、その意味が実感できるようになってまいりました。

## 二、四月二十九日…四大教主様毎年祭（二十二年）

五月四日の教主生誕祭の日に、四代様がお住まいになられていた、瑞月舎で、お抹茶の接待がありました。二十年以上前になりますが、相談役と私で、お部屋のお掃除などのご奉仕をさせて頂いたことがあります。たが、本当に質素な生活で、台所の鍋も結婚当時のものと思われる鍋でかなり古くなったものをきれいにして使われていました。代わりに新しい鍋等を献納させて頂いたき、その古いものは家宝として頂いてまいりました。また洗濯機も、ドラムの自動洗濯機が出ているときに、二層式で本体に穴も空いており、ドラム式の洗濯機は水が少なくて済むという説明をさせていただいて献納させていただきました。古い洗濯機を大本の管理部に、掃除用に使ってもらえたらと、持っていきましたら、「こんな古くて痛んだ洗濯機は使え

ない」と言われるほどでした。また、トイレにもウォシュレットを献納させていただきましたが、後日四代様から電話がかかってきて、電源はどうやって切るのかと問い合わせがありました。お部屋の掃除をさせていただいた時に気が付いたのですが、すべての電化製品のコンセントはすべてきちつと抜かれて、節電されておられました。昔、お役所（税務署？）の方が、教主様のお部屋を確認に來られた時、あまりの質素さにびっくりされたという話も聞いたことがあります。四代様には、相談役はじめ、松香の我々を本当に暖かくご守護くださいました。心より感謝申し上げます。

三、五月四日…教主生誕祭、三代教主、教主補様生誕祭  
教主様へのお祝いの行事として、オンラインによる愛善歌の奉納が御座いました。松香からは、十二名の方が参加されました、来年からは従来の形に戻るのではと思います。皆様の参加をお願い致します。

## 四、五月五日…開教百三十一年みろく大祭

新緑の中、祭典がすがすがしく行われました。教主様のご挨拶で、「本日のみろく大祭は大三災、小三災のない、平和と幸せに満ちた神人和楽のみろくの世の成就を祈念する大御祭りです。聖師様が五十六歳七か月の御齡を迎えられた、昭和三年三月

三日に始まり、半世紀後の昭和五十四年三代教主様が七十七の喜寿を迎えられた春に、五月五日に改められ、今日に至っております。聖師様は西王母の園にある桃の花は、三月三日に地上において花さき、五月五日に桃の実が完全に熟するということをお示しくださっておりますが、本日令和の年の初年にあたります令和五年五月五日のみろく大祭には、特別な意味があるように思わせていただきます。・・・

大正八年一月二日のいづのめしんゆに『まことの守護神・人民はわれとわが御魂を磨いて、この大本の教えを腹へ入れてくださりたら、神界から何も申してやらいでも、自ずとわかりてくるから、結構な御用ができて、日々勇みてうれしうれしで暮らせるようになりてくるぞよ、三千世界に大本の神の御用程結構な尊い頼もしい御用はどこにもありは致さんぞよ。』

とお示し頂いております・・・」とお話してくださいました。また、岡山本苑にご親教の際に、尊師様の石碑の「一心が神に通じぬはずはない」というお言葉もご紹介くださいました。

この大切な時に、大神様の御用に、教主様のご教導の基にお仕えさせていただけることの、ありがたさを深く感じさせていただくとともに、いかなることが起

こるとも、教えをしつかり腹に入れて、教主様にお仕えさせて頂けば大丈夫という、意を強くさせていただきました。

詳細は、大本のラインにご挨拶の動画がUPされておりますし、みろくの世誌でも掲載されると思いますので、しつかりお読みいただきたく思います。

Koran dankon



杉浦様の生けたご神前の花です。いつも、ありがとうございます。

